

「介護の負担を一人で抱え込まないために」

今回は、介護者の負担を軽減するための制度等についてお知らせします。

先が見えないのが、介護の難しいところです。「私が頑張らなくちゃ」という「頑張る人」ほど、介護の負担を一人で抱え込み、心身ともに疲れ果ててしまう傾向があるようです。介護疲れから、心ならずも虐待をしてしまうケースもみられます。介護の長丁場を乗り切るために、ぜひ、専門家や地域の人、同じ経験をしている人の力を借りましょう。

《問合せ》介護保険課地域包括支援センター 24 2401

同じ経験を持つ仲間と

交流しましょう

介護のついでなどに参加して、

当事者同士、思いを

分かち合います。

介護教室・家族介

護者交流事業



介護の方法や介護予防、健

康づくりなどについて知識を

深めます。また、介護してい

る方を一時的に介護から解放

するとともに、日帰り旅行に

よる介護者相互の交流を行い、

心身の元気の回復を支援しま

す。

いろいろなサービスを

利用しましょう

介護保険のサービスや福祉

サービス、地域の助け合いな

どを上手に利用して、介護の

負担を減らしましょう。

介護保険サービス

デイサービス、訪問介護

サービス、ショートステイ等

のサービスがあります。

高齢者福祉サービス

外出支援サービス事業、介

護用品支給事業、日常生活用

具給付事業等があります。

専門機関や専門家に

相談しましょう

認知症等に関する専門的な

相談や財産管理等については

左記へ相談ください。

認知症等に関する相談

・兵庫県但馬老人性認知症セ

ンター（豊岡市戸牧109

4 公立豊岡病院内）

☎22・1090

・豊岡健康福祉事務所（ここ

ろのケア相談・毎月第2木
曜日・予約制）
☎26・3662

・財団法人 認知症の人と家
族の会兵庫県支部
☎078・741・7707

・成年後見制度の申立て手続
きに関すること）
☎22・2881

・神戸家庭裁判所豊岡支部
☎22・2881

福祉サービス利用援助事業
福祉サービスの利用や日常
的な金銭管理、書類の管理が
不安な方をサポートする制度
です。

【利用の問合せ】
・豊岡市社会福祉協議会中央
センター ☎43・1333

なんでも相談ください

高齢者の介護・健康・福祉
暮らし等に関わる心配ごと
や相談は、介護保険課、高年
福祉課、各総合支所健康福祉
課、各地域包括支援センター
などに相談ください。

なお、相談窓口の一覧は、
12月25日発行の市広報に掲載
していますのでご覧ください。

不法投棄監視カメラ を導入します

不法投棄根絶に向けて対策を強化し

市では、不法投棄監視カメラ（以下、監視カメラ）を導入し、不法投棄対策を強化します。



不法投棄監視カメラ

市で処理する不法投棄は、年間20件前後であり、後を絶たないのが実態です。

不法投棄されたごみは、地元の清掃活動等で回収されていますが、中には到底人手だけでは回収できない場合があります。処理には多額の費用と人手がかかることから、不法投棄をさせない環境づくりが必要

です。そこで、これまで取り組んできた不法投棄防止ネット等の設置や

警察等との連携を継続しつつ、新たに監視力



メラを導入することにより、不法投棄を許さない環境づくりを推進します。

【監視カメラ導入の目的】
・不法投棄の未然防止
・行為の映像を撮影して原因者を特定し、廃棄物の適正な処理を指導および警察への告発

【監視カメラの概要】
・車両や人物を自動的に感知し、昼夜を問わず撮影が可能

・可動式のため、必要に応じて監視場所の移動が可能

・ソーラーシステムにより、電気が通っていない山中でも設置が可能

《問合せ》生活環境課

より良い環境を次の世代へ

環境基本計画 ③ 「基本理念」

環境行動をするときの考え方は、次の3つとしました。この基本理念をすべての環境行動の基礎にして、市民や事業者の皆さんと市が、それぞれに、また、相互に協力しながら、環境を良くする行動の輪を広げていきましょう。

なお、計画書は、コウノトリ共生課および図書館本館、各分館で閲覧できるほか、市ホームページでもご覧いただけます。

《問合せ》コウノトリ共生課



コウノトリの自然放鳥（平成19年9月、城崎町楽々浦）

豊岡に住み、豊岡を訪れるすべての者が当たり前のこととして、人とコウノトリが共に生きるまちにふさわしい行動をとります。

コウノトリを人里に戻すということは、日々の暮らしの中で人とコウノトリがお互いに認め合うことです。すべての市民が当たり前のこととして（無意識に、普通に）人とコウノトリが共に生きるまちにふさわしい環境行動をとってほしいという願いを込めました。

良好な環境は先人から受け継いだものであることを認識し、次の世代に引き継ぎます。

先人が、長い年月をかけて築いてきた今の環境を受け継いだ私たちには、その環境をより良い環境にして次の世代の子どもたちにつないでいく責任があります。

地域ごとに異なる環境に応じ、地域の個性を生かして取り組みます。

合併により広大になった市域に、地域ごとに異なる地形、自然、風土、生業があります。それぞれの地域が誇りうる宝物を大切に、それを生かした取組みを進めます。

環境あれこれ

14

広域ごみ・汚泥処理施設の必要性

環境に関する問題について、市の取組みなどをシリーズでお知らせします。《問合せ》生活環境課



マイバッグでごみ減量

なぜ広域化するの？

なぜごみ処理施設を広域化するのでしょうか。答えは大きく分けて3つ。ダイオキシン発生抑制対策、施設建設経費と運転経費の低減、エネルギー（熱）回収効率の向上（環境負荷の低減）です。

10年ほど前、大阪府能勢町でごみ処理施設から高濃度ダイオキシンが検出され、日本中がショックを受けたのを私たちは忘れてはならないと思います。最優先すべきことは「健康被害を出さない」ことです。

市民の方から、「ごみ処理施設が大型施設になるのではないか」という話を聞きますが、計画している広域施設の焼却炉は、ごみベースで1日当たり157トンの規模で、北但の現施設3カ所の合計198トンを超えて、大型化ではありませぬ。

りませぬ。

また、新たな広域ごみ処理施設など必要ない。今ある施設を使い続けて、古くなって直せばいつまでも使えるのではないか」という話も聞きますが、これは性能保証の限界を無視した話ですので、論外でしょう。

ごみ処理施設は、余裕を持って安全・確実に処理できる施設でなければなりません。能力不足の施設でいつもフル回転の施設では、安心することはできません。

現在、北但行政事務組合では、学識者や市民などで構成された候補地選定委員会により候補地の選定作業が行われ、新しい候補



分ければ資源

地が決まろうとしています。計画が順調に進むと、平成21年度に最終的な焼却炉の規模を決定することになります。当然、ごみ量の将来予測も精査することになり、将来に向けてどれだけ減量できるかが鍵になります。

それでも

「減量・リサイクル」市では、ごみ量最多の平成12年度を基準に、年間20%削減を目指して、市民や事業者の皆さんの協力を得て、ごみ減量に取り組んでいます。結果、平成19年度で20%強の減量が達成されることが事実となりました。

「ごみ」は今すぐゼロになりません。ごみ減量の取組みは引き続き進める必要がありますので、皆さんのさらなる協力をお願いします。

ごみ減量を基本に、広域ごみ・汚泥処理施設は適正規模を確保したいと考えています。

「ごみは減量し、同時に資源化率を高める」これが目指すべき方向です。ごみ問題はそのまま地球温暖化問題にもつながります。一人ひとりができることから始めましょう。